

地 域 再 生 計 画

- 1 地域再生計画の名称
天川農山村再生計画
- 2 地域再生計画の作成主体の名称
佐賀県、唐津市
- 3 地域再生計画の区域
唐津市の区域の一部（巖木町・天川地区及び広川地区）
- 4 地域再生計画の目標

【地域の特性】

唐津市は、佐賀県の北西部に位置し、平成17年1月1日に1市6町1村（唐津市・浜玉町・巖木町・相知町・北波多村・肥前町・鎮西町・呼子町）の合併で、東は旧巖木町・西は旧肥前町・南は旧相知町・北は旧呼子町と広範囲の市となった。今回申請する地域再生計画は、唐津市の中でも林業事業が盛んな旧巖木町の天川地区を中心としている。

旧巖木町は、佐賀県の北西部唐津市の東南部に位置し、四方を山に囲まれ東部は標高1,046mの天山をはじめ標高887mの作礼山などがそびえている。南部には標高697mの女山があり、八幡岳（旧相知町）を含む一帯が県立自然公園に指定されている。また、東北部を水源とする巖木川が平坦地で浦川内川、浪瀬川と合流し、さらに下流の松浦川に合流し玄界灘に流れこんでいる。気候は寒暖の差が大きい内陸性気候となっている。

産業は、大正年間に入り地下資源である石炭の開発が進み、昭和27年には人口22,000人を超え町制を施行した。昭和30年代のエネルギー革命により石炭産業衰退のあと、企業誘致に努めてきたものの、産業構造としては、米、みかん、林業などの第1次産業を主体に発展してきた。

農業については、みかんを中心に稲作、野菜などの複合経営が営まれ、また農業基盤の整備などにより生産性の向上が図られてきた。さらに、近年は畜産や野菜、花きなどの園芸作物の拡大に努めている。

林業については、森林面積が旧町面積の7割以上を占め、経済的、環境的にも大きな比重を占めている。しかし、近年林業を取り巻く情勢は厳しく、高齢化と労働力不足などにより、林業生産活動及び林業生産額は停滞傾向を示している。

観光については、県立自然公園（天山・作礼山・女山）を主体としながら、巖木ダム、天山ダム周辺、獅子城跡、佐用姫生誕地などを含めた観光基盤を整備し、都市住民との交流促進などに努めている。

また、「歴史と自然のパノラマさがリゾート構想」に基づく、重点整備地区として天山山麓スポーツレクリエーション地区が指定されており、観光ニーズに対応した観光施策と特産品づくりなど地域産業との連携により複合的な展開を図っている。

【地域再生計画の意義】

唐津市は、平成17年1月1日の合併で将来に向かって新たな転換期を迎えようとしている。そのために、住民一人ひとりが歴史と伝統に培われた魂を奮い起こし、先人の尊い努力に感謝し、地域相互の理解と連帯感を強めなければならない。そして、新しい豊かなふるさとづくりを進め、住民が安らぎと生きがいを感じ定住できるまちづくりに努める。

近年における急速な少子高齢化の進展、産業構造の変化等の社会経済情勢の変化に対応して、地域経済の活性化、地域における雇用機会の創出その他の地域の活力の再生（以下「地域再生」という。）を図るためには、地域における地理的及び自然的特性、文化的所産並びに多様な人材の創造力を生かし、官民の適切な連携のもと、地域の創意工夫を凝らした自主的かつ自立的な取組、すなわち「地域の潜在能力の全開戦略」を進めることが重要である。

【地域再生計画の目標】

唐津市巖木町天川地区において「天山山麓スポーツレクリエーション地区へのアクセス網整備による、農林業経営及び地域間交流（観光施策）の活性化」と関連させてソフト・ハード事業両面から取り組むことにより、官民の連携による地域の創意工夫を凝らした自主的かつ自立的な産業の活性化を促し、我が国の活力の源泉である地域の活力の再生を加速し、以下の目標を実現を目指す。

- 1．天川地区の特性、資源を有効に活用した地域産業の振興、生活環境の改善、観光・交流の促進等の地域の創意工夫を凝らした具体的な取組を推進することにより、自主的・自立的で持続可能な地域の形成を図る。
- 2．今回、合併した唐津市の中で先駆けて、天川地区の創意工夫を凝らした取組の成果として地域再生の成功事例を示すことにより、唐津市はもとより県内各地における取組を刺激し、多様な分野での地域再生の取組の総体として、全県的な規模での地域の活力の増進を図ること。

具体的な目標

- (目標1) 市道整備により、天川地区から広川地区への地域間アクセス時間を10%短縮
- (目標2) 林道整備により、間伐を主体とした森林整備面積(5ヶ年計画)を10haから15haに増加
- (目標3) 林道整備により、路面の不陸等で徒歩でしかアクセスできない林道平野～長山線から奥平野湿原までを車両でのアクセスを可能にする。

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

天川地区・広川地区を結ぶ「市道天川～杉宇土線」を集中的に整備することにより、周辺地域に点在する自然が作りあげた景観や歴史資源を連携させ、地域間交流(観光施策)の活性化を図るほか、沿線の農林業経営を効率化させる。

唐津市の水源地である「林道奥平野線の改良事業」を整備することにより、優良材を産する豊かな森林を育成するとともに、水源かん養・国土保全・環境浄化・保健休養などの公益的機能を維持・増進するほか、沿線の自然(奥平野湿原)へのアクセス道整備による地域間交流(観光施策)を活性化させる。

なお、本計画における「市道天川～杉宇土線」は昭和59年3月23日に町道認定された路線である。(平成17年1月1日市町村合併により市道となる)

また、「林道奥平野線」は平成17年2月4日に佐賀西部地域森林計画に記載されている。

5 - 2 法第四章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

[施設の種類の種類(事業区域)、実施主体]

- ・市道天川～杉宇土線(天川地区・広川地区) 唐津市
- ・林道奥平野線(天川地区) 唐津市

[事業期間]

- ・市道(平成17～21年度)、林道(平成17～18年度)

[整備量及び事業費]

- ・ 市道 900m、林道 1607m
- ・ 総事業費 1億9千4百万円
 - 市道 1億4千4百万円（うち交付金7千2百万円）
 - 林道 5千万円（うち交付金1千5百万円）

5 - 3 その他の事業

- ・ 浮立（星領・鳥越・天川）や天然記念物（夏ツバキ・カヤの木・ズミの木）や文化財（社叢林・庚申塔・平野湿原・文箱・鳥居）の連携による、地域間交流（観光施策）の活性化
- ・ 沿線農林業経営の効率化
- ・ 優良材を産する豊かな森林の育成
- ・ 水源かん養、国土保全、環境浄化、保健休養など公益的機能の維持増進
- ・ 奥平野湿原へのアクセス道整備による、地域間交流（観光施策）の活性化

6 計画期間

平成17～21年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

（目標1）市道を走行し時間を確認する。（市職員が事業完了前後確認）

（目標2）森林整備5ヶ年計画と実績を比較し確認する。

（市職員が事業完了後確認）

（目標3）林道を走行し通行が可能になったことを確認する。

（市職員が事業完了後確認）

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし。